



遙洋子さんが熱く語る

タレント遙洋子さんが講演 庄原市人権講演会

12月10日、庄原市民会館で庄原市人権講演会(庄原市・庄原市教育委員会主催)を開催しました。

タレント・作家として幅広く活躍されている遙洋子さんが「自分らしく輝いて生きる～すべての人がビューティフル～」と題して講演。

父親の介護や、これまでのタレント活動で体験してきた男女の役割分担の現状から、「性別にとらわれることなく、男女が対等な立場で役割を果たしていくことが当然ではないか」「自分自身に拍手を送ることができる自分でありたい」という遙さんの思いを、わかりやすくユーモアを交えて話しました。

口和で子どもと高齢者がふれあう

口南小「祖父母学級」・口北小「一人暮らし訪問」

口南小学校は12月3日、祖父母学級を開催し、子どもたちと祖父母と一緒に竹とんぼやリースなどを作りました。

子どもたちは、材料を近くの山から集め、祖父母に教わりながら、不慣れな刃物を使って夢中で作りました。最近はおもちゃは買うものという子どもたちは、世界に1つしか無い物を手にして喜びました。

また、口北小学校では12月6日、毎年恒例の80才以上の一人暮らし老人を訪問しました。子どもたちは歌や手作りのプレゼントを贈ったり、「野菜を食べないと元気になりませんよ」「1日1日を一生懸命生きてるよ」などと温かい会話を交わしたりして交流しました。

今までのプレゼントを大事に飾るなど、この交流を毎年楽しみにしているお年寄りの姿に子どもは感動していました。



口南小学校の祖父母学級



口北小学校が一人暮らし訪問

子どもたちの歌声・ 生演奏が響きわたる 第18回東城町音楽交流会

第18回東城町音楽交流会が11月21日、東城町老人福祉センターで行われました。

年に一度、東城の保育所・小学校・中学校・高等学校が一堂に会するこの交流会に、今回は11団体が参加。東城小学校のソーラン太鼓やダンスをはじめ、各団体は合唱や吹奏楽など、日頃の練習の成果を発表しました。

東城中学校の吹奏楽部が、「となりのトトロ」を演奏すると、保護者や地域の方でいっぱいとなった観客席から歌声が響くなど、会場内が一つになる交流会になりました。



小奴可小学校の鼓笛隊

バイオマスエネルギーの活用事例を学ぶ 庄原森のバイオマスフェア

庄原市SARUプロジェクト会議とNPO法人森のバイオマス研究会は12月3日、庄原市ふれあいセンターで、豊富な森林資源を活用した環境にやさしい社会の構築を目指し、「庄原森のバイオマスフェア」を開催しました。



小澤祥司さんが基調講演

環境ジャーナリストの小澤祥司さんが基調講演を行い、「過去200年間は化石エネルギーが産業の推進力だったが、これからは自然エネルギーが支えていく時代にならなくてはいけない」と、バイオマスエネルギーの利活用が進むヨーロッパの事例を交えて、自立型地域づくりの重要性を話しました。

また、会場ではバイオマス・環境関連パネル展示やペレットストーブの展示・販売なども行われ、参加者は木質バイオマスに見て・聞いて・触れて楽しみました。

※SARU(さる)は、Satoyama Runaissance unitの略

伝統的な技法にこだわった豆腐づくり 昔ながらの焼き豆腐作り交流会

あつばら 越原みこと会が11月19日、比和のふれあいの里越原で、昔ながらの豆腐作り交流会を開催しました。

この豆腐作りは、地元産の大豆を使用し、昔から伝えられている技法にこだわったもので、地域に伝えられてきた文化を楽しみながら伝承していこうと行われました。

石臼で大豆をすりつぶし、加熱した豆乳ににがりを加えゆっくりじっくり作業が続き、手づくりの豆腐が出来上がりました。豆腐は熊笹に包んで炭火で焼き、おからはそのまま三杯酢であえ、大豆をすりつぶして呉汁も作りました。

手づくりの豆腐は、大豆の良い香りと濃厚な味わいが特徴。尾道市から参加した方は「伝統的な技法で作られる豆腐づくりはとても勉強になった」「自分たちで作った豆腐はとてもおいしい」と話していました。



石臼で大豆をすりつぶす

新しい年が良い年になりますように 老人クラブ総領地区連合会が門松づくり

老人クラブ総領地区連合会が12月14日、新年を祝うため、総領支所庁舎玄関前に高さ約2メートルの門松を作りました。

15人の会員は、「平成19年が総領をはじめ庄原市民の皆さんにとって幸福で良い年となりますように」との願いを込めて、葉ボタン、竹、梅、ナンテン、松をバランスよく組み合わせ飾りました。また、総領支所のほか、総領の福祉施設「ともいきの里」「ユージュアイン」にも門松が置かれ、「見事な出来栄え」と来訪者を喜ばせていました。

この門松は1月中頃まで飾られます。



総領支所に飾られた門松

各地域で行われたイベント&話題を紹介するコーナーです。

カメラレポート

いんこうしゅんげい

食用キジで地域に活力を キジの里有志会に後継者誕生

西城町八鳥で、住民グループ「キジの里有志会」が休耕田18アールに飼育舎4棟を建て、食用キジの飼育に取り組んでいます。

平成2年に放鳥用の10羽を仕入れてから軌道に乗るまで数年間は試行錯誤の連続でしたが、八鳥地区の自然環境を生かし、他にない特産品を作ろうとの思いから、活動を続けてきました。

キジはとてもデリケートな鳥で、特に産卵からふ化までが最も難しく、飼育には熟練した技術が必要です。現在メンバーは6人で、50歳代が中心ですが、「飼育担当後継者を育てよう」との声に坂野正夫さんが応え、ベテランの指導のもとノウハウを学んでいます。

坂野さんは、「キジ肉は脂質やカロリーが鶏肉の約半分、たんぱく質が豊富で、特に8種類の必須アミノ酸を含むヘルシーさが特長。これを機会に規模を拡大し、抗生物質、薬品、添加物は使わず、安全でおいしいキジを多くの人に食べてもらいたい」と意欲を話していました。



飼育舎でノウハウを学ぶ坂野さん(左)

市民アーティストの作品集 「創造の村」作品展

11月23日から28日にかけて、ウイロ西城2階の展示スペースで、西城の創作施設「創造の村」で活動する市民アーティストと地元の児童、生徒の作品展が開催されました。

「創造の村」は、西城地域の芸術振興の拠点施設として旧西城中学校寄宿舎を改修し、平成15年に開設されました。町内の画家、写真家、陶芸家11人が創作活動を行い、地元の小中学生、高校生14人が指導を受けています。

開設から3年が経過する中、創作活動の成果を発表しようと、毎年作品展を開催しており、今年は、油彩・水彩・写真・陶芸・デザインなど多彩な作品117点を展示しました。日本画や油彩の大作や海外に題材を求めた作品もあり、多くの来場者が作品を鑑賞しました。創造の村村長の池本旭さんは「作品を見てもらうことで仲間が増え、活動が地域に広がってほしい」と話していました。



創造の村アトリエで小学生を指導

備えあれば憂いなし、防災を学ぶ 高野中が防災・避難訓練

11月27日、高野中学校で防災・避難訓練が実施され、教職員と全校生徒61人が地震発生の際の避難や、消火器を使った消火と防災を学びました。

庄原消防署高野出張所と、(社)建設コンサルタンツ協会中国支部防災部会の指導により、消火器の扱い方や、土砂災害の原因と対策などに理解を深めました。また、高野町内の身近な危険箇所と避難場所を学習した他、班対抗で実施した防災クイズは、「土砂災害に関する知識をゲーム感覚で取得できた」と生徒に好評でした。



班対抗の防災クイズ

米作りの発表会と収穫祭 粟田小「わくわくフェスタ」

12月1日、東城の粟田小学校が米作り体験学習の発表会と収穫祭を兼ねた「わくわくフェスタ」を開催しました。

このイベントに地域住民約50人も参加。

子どもたちは、「素足で入った田んぼの感触が気持ちよかった」などと、田植えから稲刈りまでの米作り体験や精米機メーカーを訪問して学んだこと、感じたことを発表しました。また、賑やかな餅つきが行われ、参加者全員であんこ餅を作り、1年間の思い出を語りながら、おいしく食べていました。

その他、日頃から学校で取り組んでいる外国人との交流や茶道を楽しみました。



精米機メーカーで学んだことを発表

県内各地の神楽団が競演 第24回帝釈峡近郷神楽競演大会

12月3日、東城町老人福祉センターで第24回帝釈峡近郷神楽競演大会が開催されました。

この大会は、国重要無形民俗文化財に指定されている『比婆荒神神楽』の継承のため、近隣の神楽団を招いて始まりまし。今回は、高井神楽団(広島市佐伯区)、大塚神楽団(北広島町)、県無形民俗文化財に指定されている羽佐竹神楽団(安芸高田市)が参加し、華やかな衣装を身に付けた団員たちが熱く華麗な舞を披露しました。

比婆荒神神楽は、本山三宝荒神の鎮魂の要素を色濃く残していることが特色。粉雪の舞う寒い中、県内外から来場された多くの観客は、県内各地に伝わる伝統文化を堪能しました。



比婆荒神神楽の猿田彦舞



満員の客席

城跡を地域の憩いの場に 大富山へ歴史探訪ハイキング

11月23日、西城市街地の南端にある大富山で、歴史探訪ハイキングが行われました。

大富山には、備北地域屈指の山城の遺構が今も残り、標高511.4mの山頂は、大富山城跡として市の史跡に指定されています。

城下町西城発展の象徴、大富山をもっと身近な地域の憩いの場にしたいと、西城町商工会、観光協会をはじめ有志の呼びかけで始まった大富山へのハイキングは今年で4回目。地元の自治振興区や市役所西城支所も協力して草刈りや倒木の整理などの作業が行われ、整備された登山道を、約100人の参加者が40分かけて頂上を目指しました。

今回は、西城公民館主催の「子ども歴史講座」が同時開催され、小中学生の参加も多く、山頂で西城町郷土研究会会長の新田成美さんから、大富山城の歴史や西城の文化について説明を聞きました。また、晩秋の風景を楽しみながら弁当を広げ、景品が当たる抽選などで賑わいました。



大富山のハイキングを楽しむ参加者